

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆「生きる力」を育む教育活動の充実を図るとともに、生徒の個性を伸ばさせ、社会をリードする人材を育成する学校。
- 1 学習において、主体的に知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する「確かな学力」を育成する。
 - 2 生命や人権を尊重し、自然や美しいものに感動する「豊かな心」を育むとともに、たくましく生きるための「健康・体力」を保持増進する。

2 中期的目標

1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成

- (1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進
 - ア すべての教科において、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるように授業の工夫を行い、今後必要とされる学力の向上をめざした授業研究・実践に取り組む。
 - イ 定期的に会議を実施し、個々の生徒の状況を共有し、課題のある生徒に対して組織的に対応する。
- (2) 自学自習習慣の確立
 - ア 自学自習習慣の確立のため、自習環境の整備・提供を行うなど学習環境の整備に努め、生徒の自ら学ぶ力を育成する。
※授業アンケート調査で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を令和7年度も共に全学年で80%以上を維持する。(R2 80% R3 81.5% R4 82.9%)

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

- (1) 基本的生活習慣の確立
 - ア 遅刻指導やマナー指導を通じ、基本的な生活習慣の向上や学校生活における規範意識の醸成を図る。
- (2) 学校行事の活性化
 - ア 生徒会や部活動・団活動のリーダーを中心に、生徒一人ひとりが協力し合い、本校の特色を活かした取り組みについて、生徒の自主的な活動を促進する。
 - イ 学校行事や生徒会活動の特別活動を通して、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。
 - ウ ボランティア活動を通して、他者とかかわる喜びを実感させ、共生の意識を身につけさせる。
- (3) 体力・運動能力向上のための取組の充実
 - ア 生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるようコンディショニングについてのセミナーを開催し、スポーツ障がいやコンディショニングについての生徒の意識を高める。
※学校教育自己診断で、「本校は生徒心得を守るよう適切に指導している（されている）」と「私は服装や頭髪等、生徒心得を守っている。」の「あてはまる（ややあてはまる）」の割合を令和7年度には共に全学年で85%以上にする。(R2 88.9% R3 84.9% R4 89%)

3 進路保障

- (1) キャリア教育の推進
 - ア 全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成する。効果的な指導を行うためのガイダンスなどを系統的・継続的に行う。また、教科でのキャリア教育を推進し、思考力・判断力・表現力をより重視した教育活動を進める。
- (2) 進学対策の充実
 - ア 放課後セミナー、土曜セミナー等を実施し、進路や習熟度に応じた対策を講じる。
 - イ 学年・学科・系列と協力し、一人ひとりの進路希望に則した、進路意欲向上のためのガイダンスの実施や情報発信をおこなう。
※2年生の学校教育自己診断で、「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を令和7年度には80%以上にする。(R2 73.1% R3 72.3% R4 78.3%)
※学校教育自己診断で、「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の「あてはまる（ややあてはまる）」の割合を令和7年度には全学年で80%以上にする。(R2 74.4% R3 76.8% R4 85.4%)
※系統的な指導を継続し、生徒の学力の一層の向上に努め、第3学年当初の進路希望を令和7年度も90%以上を維持する。(R2 92% R3 94.3% R4 87%)

4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり

- (1) 学校運営体制の整備
 - ア 各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容を点検・評価を行い、校内の「見える化」をさらに進める。
 - イ 本校の将来を見据えた課題解決の方向性を示し、改善策を立案する。
- (2) 授業研究を伴う校内研修の充実
 - ア 授業力・教科指導力の向上を目的として、公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施する。
- (3) 働き方改革
 - ア 各種業務の時間の短縮を図り、時間外勤務月80hの教職員を令和7年度には10%以下とする。(R2 18% R3 18% R4 11%)
- (4) 家庭・地域との連携の推進
 - ア 「学年だより」「進路だより」「保健だより」の発行、授業参観、PTA研修会等の実施、地域イベントへの参加などにより家庭・地域と連携した教育活動を行う。
- (5) 広報活動の充実
 - ア 生徒の学校生活や校内行事、校外活動などについて、ホームページを通じて外部に積極的に情報を発信する。
※学校教育自己診断で、「本校に入学してよかったと思っている」の「あてはまる（ややあてはまる）」の割合を全学年で令和7年度も80%以上を維持する。(R2 77.0% R3 83.0% R4 85.0%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4年度値]	自己評価
1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成	<p>(1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進</p> <p>(2) 自学自習習慣の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるようにアクティブラーニング型手法を取り入れた授業を行い、今後必要とされる確かな学力の育成と授業改善に取り組む。</p> <p>イ 授業への ICT 機器の効果的な活用を進め、一斉学習、個別学習及び協同学習を組み合わせた教育実践に取り組む。</p> <p>(2) 学習の計画を明確にし、提示することにより、各授業時間・単元ごとの課題と評価を整理して、生徒の学習サイクルの確立および自主学習の習慣化を促す。また、自習場を提供するなどソフト・ハード両面から学習環境を整える。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員用学校教育自己診断で、「主体的・対話的で深い学びとなるよう、一方的な講義形式ではない授業形式など授業を工夫している」教員の割合を 75%以上とする。[70%]</p> <p>・授業アンケート調査で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」の割合を全学年で 80%以上にする。[82.1%]</p> <p>・「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の肯定率を全学年で 80%以上にする。[83.7%]</p> <p>イ・校内で 1人1台端末に関する研修を 2回実施する。[1回]</p> <p>・教職員用学校教育自己診断で、「授業において積極的に ICT 機器の活用を行っている」教員の割合を 75%以上を維持する。[89.4%]</p> <p>(2) 生徒の自学自習習慣確立のため、土曜セミナー（自習スペース開放）を年間 10 回程度実施する。[9回]</p>	

2 豊かでたくましい人間性のはぐみ	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>(1) 挨拶運動や日々の遅刻指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングシートを用いた原因分析 ・遅刻防止週間の設定 ・早朝登校の実施 	<p>(1) 年間の遅刻数を1,000件以下とする。[約2,000件]</p>	
	<p>(2) 学校行事の活性化</p>	<p>(2) 学校行事や生徒会活動等の特別活動を通して、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。また、ボランティア活動を通して、他者とかかわる喜びを実感させ、共生の意識を身につけさせる。</p>	<p>(2) 体育祭・文化祭後の生徒アンケートで肯定的回答を85%以上とする。[92.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動として、校内自主清掃活動や地域清掃活動に参加した生徒の数を50名以上を維持する。[146名] 	
	<p>(3) 体力・運動能力向上のための取組の充実</p>	<p>(3) 事故を防止し、生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるように運動部の部員を中心にコンディショニングについてのセミナーを開催する。</p>	<p>(3) 運動部の部員に対して年1回以上コンディショニングについてのセミナーを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー参加生徒の満足度を80%以上を維持する。[96%] 	

3 進路保障	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <p>(2) 進学対策の充実</p>	<p>(1) 全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践する力の育成をめざして系統的・継続的なガイダンスを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒のニーズに的確に対応するため、放課後セミナー、夏期集中セミナー、冬期集セミナーなどの各種セミナーを実施し、進路や習熟度に応じた対策を講じる。</p> <p>イ 生徒個々の進路希望に則した、進路意欲向上のためのガイダンスを担当団と各分掌の連携のもと実施し、生徒の進路実現に向けた情報発信を継続的にこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教員による進路ガイダンス ・大学教員による出前講義や実技講習 ・学科、系列ごとの大学訪問 	<p>(1) ガイダンスや進路学習など学年の状況や実態に応じたキャリアガイダンスや進路ガイダンスを各学年とも学期に1回以上実施する。[1年4回、2年3回、3年1回](キャリアガイダンスのみの数値)</p> <p>(2)</p> <p>ア 放課後セミナーの講座数を30講座程度開講する。[29講座]</p> <p>イ 学習支援クラウドサービスを活用した生徒、保護者向けの進路情報の発信を月1回以上実施する。[12回]</p> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の学校教育自己診断「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を75%以上を維持する。[78.3%] ・3学期の生徒・保護者アンケート調査「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率を全学年で80%以上を維持する。[85.4%] ・第3学年当初の進路希望を85%以上実現する。[87%] 	
-----------	---	---	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 学校運営体制の整備</p> <p>(2) 授業研究を伴う校内研修の充実</p> <p>(3) 働き方改革</p> <p>(4) 家庭・地域との連携の推進</p> <p>(5) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 校務運営の一層の充実を図るため、各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容について点検・評価を行い、校務運営の「見える化」と「効率化」を進める。</p> <p>イ 本校を取り巻く課題を検討し、教育活動を体系化・継続化するため、将来構想検討委員会を定期的開催し、スクール・ポリシー（案）の策定をめざす。</p> <p>(2) 教職員間での公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施することを通じて授業力・教科指導力の向上をめざす。</p> <p>(3) 業務分担の見直しや適正化等を通じて、各種業務の時間の短縮を図り、教職員の時間外勤務の縮減を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤日の設定 ・ ノークラブデーの徹底 ・ 保護者配付資料や会議資料のペーパーレス化推進 <p>(4) 開かれた学校づくりのため、「学年だより」「進路だより」「保健だより」等の発行や教職員・PTA 合同の研修会等の実施、生徒の地域イベントへの参加などに取組み、家庭・地域と連携した教育活動を充実させる。</p> <p>(5) ホームページの更新を通じて積極的に学校に関する情報を発信し、学校の魅力を外部に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの全面リニューアル ・ 生徒主体の学校説明会や体験入学の運営 ・ 中学校 P T A 対象学校見学会の実施 	<p>(1) ア・イ 校務運営の在り方も検討する将来構想検討委員会を年間 5 回以上開催する。[4回]</p> <p>(2) ・ 公開授業週間、保護者対象授業参観をそれぞれ年 2 回以上実施する。[公開授業週間 2 回、保護者対象授業参観 1 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業週間で教員向けアンケートを実施し、アンケート結果を自らの授業改善に生かすことが出来た教員の数を 70% とする。[79%] <p>(3) ・ 時間外在校等時間月 80 時間以上の教職員数 10% 以下をめざす。[11%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議の 70% 以上を開催時間 50 分以内とする。[58%] <p>(4) ・ 各通信を各学期 1 回以上発行する、[学年 1 年 12 回、2 年 6 回、3 年 12 回、進路だより 12 回、保健だより 12 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員・PTA の合同研修会を 1 回以上実施する。[1 回] ・ 地域で開催される地域イベント等に生徒が参加することができたか。[2 回] <p>(5) ホームページにおいて、様々な取組について 150 回以上の更新を実施する。[187 回]</p> <p>(1)・(2)・(3)・(4)、(5) 学校教育自己診断「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率を全学年で 80% 以上を維持する。[85%]</p>	
--	--	--	---	--